



小川やすえ

滋賀県議会議員

- プロフィール●
- 徳島県鳴門市出身●岡山大学文学部卒業●1996年滋賀へ●1997年子育てや女性の一步を応援する「びいめ〜企画室」創設。情報紙発行、コミュニティカフェ運営等に携わる
- 2011年〜2014年守山市議会議員
- 2019年〜滋賀県議会議員



ワクチン接種訓練に接種役ボランティアとして参加し、くつカバーや視覚や聴覚に障害のある方への配慮などを提言しました！

新型コロナウイルス
ワクチン接種
運営訓練会場



昨年3月5日に滋賀で初めての新型コロナ感染者が確認されたから1年。感染再拡大も懸念される中、4月18日から守山市でも高齢者の方たちへのワクチン接種がスタートする予定です。副反応や変異株への有効性など様々な懸念もありますが、住民の皆様への不安や疑問に寄り添いながら、ポストコロナ時代に向けての一步として、県・市と連携して、しっかりと進めてまいりたいと思います。

Topics

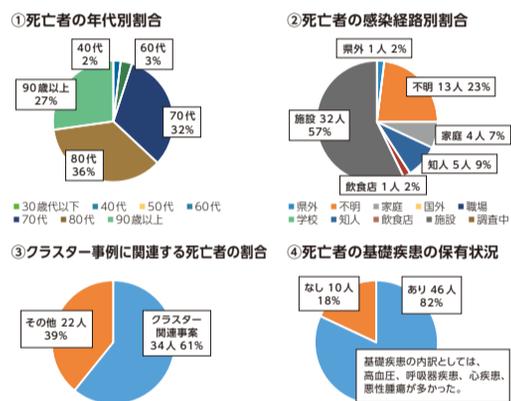
- 2月定例会議一般質問
- 新型コロナ特別委員会
- 滋賀県令和3年度予算

新型コロナから県民の命と暮らしを守るためのさらなる対策を!!

健康医療福祉部長 ▼「感染者が多数発生している地域等」において、高齢者施設等の関係

●この数字から見ても、医療体制の負荷の増大を防ぐ観点からも、高齢者施設や医療機関でのクラスターをいかに押さえるかが大変重要だ。国からも要請されている「高齢者施設等感染が生じやすい場所・集団等に対する積極的な検査」として、他府県でも広がって来ている職員等への一定定期的な検査拡充を図るべきでは。

13) 死亡事例(計56件)の状況 4/1現在の県の資料より



※この分析は新聞でも報道されましたが、その後県の資料にも掲載されるようになりました。

健康医療福祉部長 ▼令和2年2月25日時点で亡くなられた方43名のうち、70代以上が41名(95%)、高血圧、呼吸器疾患、心疾患、悪性腫瘍等基礎疾患のあった方が36名(83%)、医療機関や高齢者施設クラスター関連の方が25名(58%)となっている。



質問の様子は滋賀県議会ホームページの録画でもご覧頂けます。



<https://www.shigaken-gikai.jp/>

2月定例会議一般質問

健康医療福祉部長 ▼「感染者が多数発生している地域等」において、高齢者施設等の関係

●コロナ対策経営力強化支援事業「緊急枠」として、売り上げ確保支援に加えて、飲食関連事業者さんへの給付型支援も追加されました。4月13日に「ラボ」が21で説明会も開催。ぜひご活用下さい！



特設サイト

●多くの小規模な飲食店にさらに新しい取組みができる余力が残っているとは思えない。その仕組みで本当に困っている方々に届く支援となるのか。

●滋賀は緊急事態宣言の対象とはならなかったが、対象地域に隣接しており飲食店等は深刻な打撃を受けている。代表質問の答弁で「緊急的な追加提案を考えている」とあったが、検討内容について伺う。

●11月に術前スクリーニング検査を含む4500件の集計漏れが突然報告された。術前スクリーニング検査も分母に含まれているのか。

健康医療福祉部長 ▼「感染者が多数発生している地域等」において、高齢者施設等の関係

●「感染拡大地域」の判断基準はあるのか

健康医療福祉部長 ▼国からは示されていないが、新規の感染者数、経路の不明割合、クラスターの発生状況等を保健所長が総合的に判断し決めていく。

●国の発表しているコロナ感染指標では、2月28日段階で、滋賀県の検査陽性率は6.4%だが県の発表では3.6%となっており倍近く乖離している。

●2月28日段階で滋賀の陽性率は全国トップであり、県発表のものでも3位。

健康医療福祉部長 ▼確かに陽性率は検査件数が足りているか、感染を的確にコントロールできているかを把握する指標である。ただ他との比較というより、絶対値として、10%未満に抑えるのが望ましいと考えられている。県で把握している陽性率(PCR検査のみであっても)を見る限り、第3波においては、10%を超えた期間は極めて少ないものの、感染急拡大期には、陽性率も上昇する傾向にあることは事実である。

大阪、兵庫に蔓延防止等重点措置が適用され、これまでの例から見ると、20日後くらいには滋賀にも影響が及び事が懸念されます。その対策として、ワクチン接種の推進と同時に、検査の拡充も必須と考えます。県民の命と暮らしを守るためにも、県施策をしっかりチェックし、政策提言をしまいたい。

健康医療福祉部長 ▼確かに陽性率は検査件数が足りているか、感染を的確にコントロールできているかを把握する指標である。ただ他との比較というより、絶対値として、10%未満に抑えるのが望ましいと考えられている。県で把握している陽性率(PCR検査のみであっても)を見る限り、第3波においては、10%を超えた期間は極めて少ないものの、感染急拡大期には、陽性率も上昇する傾向にあることは事実である。

健康医療福祉部長 ▼確かに陽性率は検査件数が足りているか、感染を的確にコントロールできているかを把握する指標である。ただ他との比較というより、絶対値として、10%未満に抑えるのが望ましいと考えられている。県で把握している陽性率(PCR検査のみであっても)を見る限り、第3波においては、10%を超えた期間は極めて少ないものの、感染急拡大期には、陽性率も上昇する傾向にあることは事実である。



●国の発表しているコロナ感染指標では、2月28日段階で、滋賀県の検査陽性率は6.4%だが県の発表では3.6%となっており倍近く乖離している。

新型コロナ特別委員会 滋賀のPCR検査は十分なのか?!

令和3年度予算で「琵琶湖の淡水真珠」「ペット多頭飼育対策」が予算化されました!!

予算特別委員会質疑

「これまで取り組んで来て予算化されたことを中心に、5点問わせていただきました。」

コロナ離職者対策について

令和3年度には800人の雇用を目指すという事だが、算出根拠は

厚労省が発表している「解雇等見込み労働者数」の昨年5月から11月末までの7か月間の累計482人に7分の12を乗じ、それが826人となることから目標数を800人規模とした。来年度は、緊急雇用創出事業で196人、離職者早期再就職支援事業で500人、離職者雇用型訓練推進事業で120人と、合計816人の雇用創出を計画している。

令和2年度と同様の緊急雇用事業では200名を目指したが157名の雇用に留まった。その要因との改善策は。

介護・福祉や農業など従来から人手不足の分野で計画数を下回ったことが要因。3年度はこれらの分野の魅力を発信し、雇用期間を最大1年間に延長した。進捗状況を定期的に把握し、必要に応じて就職支援機関等でPRを行いより多くの雇用につなげる。

予算終了後も、雇用した方達の継続的な生活の安定につながるよう、相談などのフォロー体制が必要では。

介護や福祉、農林漁業などについては、労使双方の意向が合えば、継続雇用につながることを期待している。再就職を目指す場合は、しがジョブパークやマザーズジョブステーションなどの就職支援窓口を周知し、専門アドバイザーによる、きめ細かな相談など支援を行っていく。

淡水真珠母貝の生産安定化研究

新聞報道もあったが、ナマズを使った取り組みの令和2年度の成果について伺う。

真珠母貝となるイケチヨウガイの幼生は一時期魚のエラやヒレに寄生する必要が

あるが、寄生

魚の確保に課題があり、真珠母貝の安定供給を困難に

してきた。令和2年度は、寄生魚としてナマズを6つ

の養殖業者さんに合計約千尾試験的に提供した。「ナマズ1尾に寄生する幼生の数が多くて、飼育管理もしやすい」「例年の3倍近い稚貝の生産ができた」と評価いただいている。



水産試験場で話題のナマズと対面!

令和3年度はどのように進めるのか

ナマズのサイズをいろいろ変えて試験を行い、使用するナマズの最適なサイズを解明したい。また、現在稚貝の養成は主に陸上の施設で行われているが、湖等の漁場で、それぞれの環境にあった簡易な養成技術の開発試験を実施したい。

在来イケチヨウガイの系統保存事業とは

琵琶湖ではほぼ確認できなくなった在来イケチヨウガイが、かつて琵琶湖から移植した遠隔地で生息が確認されており、それを里帰りさせることを検討したい。まずは、現在の真珠母貝を用いて、水産試験場の施設で飼育する方法を確立するために、成長段階ごとの餌の量や飼育方法など検討を行いたい。

多頭飼育対策事業について

どういった主体とどのように連携していくのか

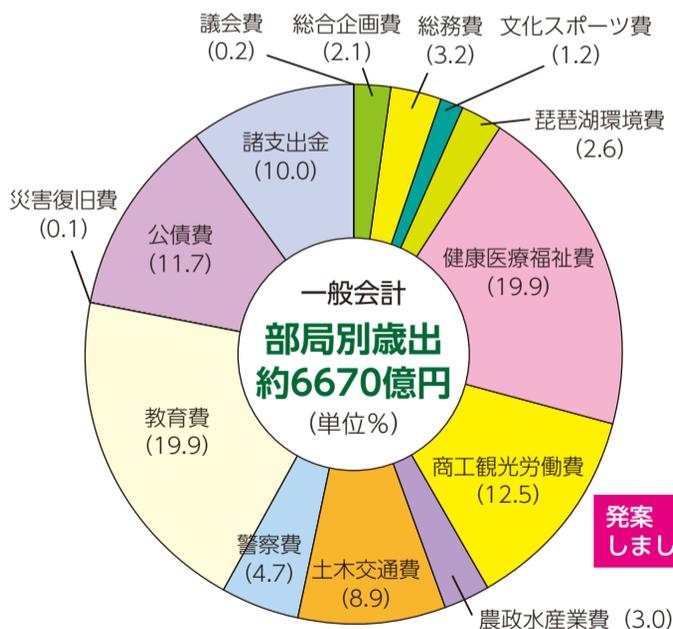
多頭飼育の問題では、飼養者が精神疾患や認知症により様々な課題を抱えている例も多く、動物愛護管理行政だけでは解決が難しい面がある。そこで、市町の環境部局や福祉部局、あるいは自治会や民生委員、ケアマネージャー、動物愛護団体等が、互いに自らのできることを分担して連携して対処していくことが必要である。3年度は、関係者による多頭飼育対策検討会を設置し、今後作成の予定の啓発動画の内容、効果的な活用方法につ

滋賀県令和3年度当初予算

未来を変える みんなの「一歩」

令和3年度当初予算は、コロナの影響で税収減が見込まれる中ですが、コロナ対策や国土強靱化対策予算が増大し、前年度比16.9%増で当初予算としては初の6000億円を突破し、歳出約6670億円となりました。うちコロナ関連は1021億円となり、内訳は経済・雇用・生活支援対策に724億円、医療提供体制の充実・強化に251億円、感染拡大防止策として31億円、学びの機会確保に11億円となっています。

一方で、当初予算案の段階での財源不足は120億円と、昨年度当初の不足額より15億円増加しており、厳しい財政状況が続いています。財政調整基金取り崩しや県債発行で対応予定ですが、基金残高に注視しながら、歳入確保策を探るとともに、県民目線ですっかりとチェックしてまいります。



pic up!

- 衛生科学センターの在り方検討 370万円
- 自殺予防、ひきこもり支援 1億1150万円
- 女性の就労サポート 7510万円
- 不妊・不育治療のサポート 6億9650万円
- 高等専門人材育成機関の設置検討 4670万円
- 少数でも精鋭の儲かる水産業 3130万円
- 新しい時代における観光振興等 14億8900万円
- CO2ネットゼロへの挑戦 55億6200万円

「ジェンダー平等」意見書提案 & 可決!!

DVやあらゆるハラスメントの根絶、選択的夫婦別姓制度の導入などを求める意見書を会派として提案し、賛成多数で可決されました!

いて検討し、国のガイドラインも参考にしながら、実際の多頭飼育崩壊の事例の解決に向けた手法や役割分担について検討を進めていきたい。
●未然防止対策として、不妊手術が重要だと考えるが
飼い主責任を果たすことが困難であると認められる場合は、動物愛護団体が預かっていただけて不妊去勢手術を実施し、県としてはその経費に対して補助を行うということを考えている。

pic up!
●少数でも精鋭の儲かる水産業の構築について●地域養護推進事業についても問
「昨年9月定例会議で訴えた内容が、さっそく予算化され感謝です。コロナ禍で新規犬猫飼育数が前年比15%増との報告もあるが、こういったブームのあとは、必ず飼育放棄などの問題も発生してきました。そうならないための事前対策としてしっかりと取り組んでいただきたいと思っています。」

地域のみなさと

感染防止対策をして、イベントも少しずつ開催されるようになってきました。ポストコロナ時代への「新しい日常」の構築が、一歩ずつ進んでいることを実感します。



県庁前のキッチンカー村に多国籍料理MONKAZIさんが出店!



駅前総合案内所押し花の作品展で、癒されました。



自治会館で開催された切り絵の作品展。迫りに感動!